

2017 年 7 月 6 日 全 8 頁

納税ランキングに見るミャンマーの企業活動

法人税納税上位は、石油・ガス、ビール製造、銀行等

DMS(ヤンゴン駐在)
佐藤清一郎

[要約]

- ミャンマーの内国歳入局は、毎年、企業の法人税と商業税に関する納税ランキングを公表している。納税ランキングは、ミャンマーでどのような企業活動が活発であるかを見る一つの参考となる。ここでは、2015 年度の法人税納税ランキングの資料を使って、外資企業と国内企業の納税額比較と国内企業納税上位の企業活動を見てみる。
- 外資企業の法人税納税額上位は、石油・ガス開発関連企業が多く、上位 5 社の内 4 社はこの分野の企業である。国内企業の法人税納税上位は、銀行、製造業、建設資材、ガソリン輸入卸などである。1 位の Kanbawza Bank の納税額は 2 位以下の企業を圧倒的に凌いでいるが、比較範囲を外資企業まで広げると、外資 1 位の Moattama Gas Transportation の納税額は、Kanbawza Bank の約 7.5 倍となっており、外資の圧倒的存在感が目立つ。
- ミャンマー経済は、軍事政権下にあったことで、軍関係や軍との関係の深い一部の財閥が大きな経済的影響力を持っていると言われてきた。しかし、2015 年度の納税ランキング上位の企業を見ると、財閥関係で、明らかに上位に居るのは、Kanbawza グループと UMEHL のみである。
- 財閥以外で好調な業績を残している国内企業の業種は、(1) 建設資材、住宅設備関連の卸小売、(2) 石油精製品の輸入販売（ガソリンスタンド）、(3) インターネット関連、(4) 中国との国境貿易などに関係するものである。
- 2015 年度の外資および国内の法人税納税ランキングから見てくるミャンマー経済の姿は、石油・ガス開発継続、ビール製造好調、建設ラッシュ、輸入日本車を中心とした自動車急増に伴うガソリン需要増、インターネット拡大、活況な中国との国境貿易などである。資本蓄積のベースとなるような製造業が見当たらないのは、ミャンマーの大きな課題である。

はじめに

ミャンマーの内国歳入局は、毎年、企業の法人税と商業税に関する納税ランキングを公表している。国内企業については上位 1,000 社、外資企業については、毎年掲載される企業数が異なっている。2013 年度は、法人税上位 67 社、商業税上位 48 社であったが、2015 年度は、法人税が上位 183 社、商業税は上位 157 社が掲載されている。ミャンマーの場合、各企業が、きちんと納税を行っているかの疑問は残るが、納税ランキングは、ミャンマーで、どのような企業活動が活発に行われているのかを見る一つの手がかりとなる。ここでは、2015 年度の法人税納税ランキングを使って、外資企業と国内企業の上位 5 社の企業活動と納税額、及び、国内企業上位 30 社の主な企業活動について見てみる。

1. 外資企業と国内企業の上位 5 社と納税額

2015 年度における法人税納税ランキングの外資企業部門を見ると、上位 5 社中 4 社が石油・ガス開発関連企業となっている。ミャンマーには、シュエ、ヤダナ、ゾーティカ、イエタグンなどの代表的なガス田があり、これらの開発に関係する企業である。納税額が上位にあると言うことは、開発が順調であることを意味するが、ミャンマー国内でのエネルギー需給という観点ではほとんど関係がない。すなわち、シュエのガスの約 8 割は中国に輸出、ヤダナとゾーティカの約 8 割とイエタグンの全部はタイに輸出されているのである。

1 位の Moattama Gas Transportation は、フランスの Total、米国のシェブロンに関連会社の Unocal、タイの PTTEP と、ミャンマーの Myanma Oil and Gas Enterprise (MOGE) との合弁企業で、主にヤダナガス田の開発を手がけている。2 位の Tanintharyi Pipeline は、マレーシアの Petronas とミャンマーとの合弁企業で、主に、イエタグンガス田のガスをタイに送るパイプライン建設を手がけている。3 位の PTTEP International は、石油・ガス開発を手がけるタイの会社で、新たな開発地を求めて、1996 年 7 月、ミャンマーのヤンゴンに支店を開設している。現在、Onshore と Offshore あわせて 8 つのプロジェクトを抱えている。4 位の Myanmar Brewery は、1995 年 3 月に外国との合弁で設立された会社で、ミャンマービール、アンダマンゴールド、ブラックシールドスタウトなどを含め数種類のビールを製造している。2015 年に、日本の麒麟ホールディングスが 55% 出資している。麒麟ホールディングスから数名の駐在員が派遣され、品質管理、マーケティングなどの指導を行っており、新商品開発などを含め、積極的な企業展開が目立つ。5 位の Unocal Myanmar Offshore は、米国のエネルギー会社シェブロンとの関係会社であり、主に、タニンダーリ地方域にあるゾーティカガス田開発を手がけている。

国内企業の活動に関しては後述するので、ここでは、外資企業と国内企業の納税額の規模に注目したい。外資企業 1 位の Moattama Gas Transportation の納税額は、1,741 億チャット（約 144 億円）である一方で、国内企業 1 位の Kanbawza Bank は、232 億チャット（約 19 億円）となっており、約 7.5 倍、外資企業の方が多くなっている。国内企業だけに注目すれば、Kanbawza Bank が 2 位の Myawaddy Bank の約 2.7 倍の納税額となっており圧倒的なものではあるが、比較対

象を外資企業まで広げると、Kanbawza Bank は、外資企業 5 位の Unocal Myanmar Offshore と同じ位の納税額となる。このように考えると、石油・ガス開発を中心とした企業のミャンマー財政へのインパクトは極めて大きいと言えよう。

図表 1 外資企業と国内企業の上位 5 社の企業名と納税額（2015 年度）

順位	外資企業		国内企業	
	企業名	納税額(億チャット)	企業名	納税額(億チャット)
1	Moattama Gas Transportation	1,741	Kanbawza Bank	232
2	Tanintharyi Pipeline	1,212	Myawaddy Bank	85
3	PTTEP International	367	Myanma Economic Holdings	56
4	Myanmar Brewery	251	Myawaddy Trading	55
5	Unocal Myanmar Offshore	220	Shwe Byain Phyu	48

出所：Internal Revenue Department より DMS 作成

2. 納税ランキングに見るミャンマーの国内企業活動

次に、どのような企業が国内企業の上位ランキングにいるかを見て、ミャンマー経済の企業活動状況を概観する。

納税額 1 位は Kanbawza Bank である。2012 年度以降の資料で確認する限り、Kanbawza Bank は常にトップに位置している。Kanbawza Bank は、シャン州に起源を持ちアウン コ ウイン氏が代表をつとめる Kanbawza グループの中核銀行である。Kanbawza グループの事業分野は、建設、衣料、保険、セメント、ガソリンスタンド、航空等多岐にわたっている。Kanbawza bank は、2003 年の金融危機の際には、それほど積極的なビジネス展開をしていなかったことで、預金取り付け騒ぎの影響を最小限にとどめることができ、今ではミャンマー最大の商業銀行となっている。預金量は上位 10 行合計の約 4 割を占めるとされている。

2 位は、Myawaddy Bank、3 位 Myanma Economic Holdings、4 位 Myawaddy Trading は、軍系の財閥である Union of Myanmar Economic Holdings (UMEHL) のグループ企業である。3 社が並んで上位ランキングにあるのはグループ全体の企業業績が好調であることの証拠である。Union of Myanmar Economic Holdings は、宝石の製造・販売、縫製業、木材、たばこ、飲料、電子機器、コンピュータ、セメント、鉄、スーパーマーケット、銀行、ホテル、運輸・通信、建設、不動産等多岐にわたったビジネスを展開している。宝石の採掘や販売は政府の許可制のため、この市場では、ほぼ市場を独占しているとも伝えられている。3 位の Myanma Economic Holdings 傘下にはミャンマービールを製造する Myanmar Brewery があり、ここの業績が好調なことが納税ランキング上位に位置することに大きく貢献していると思われる。Myanmar Brewery は、2015

年 8 月、キリンホールディングスが約 5 億 6 千万ドルで買収して以来、品質管理を徹底したり、新商品を生み出したり、広告宣伝活動を積極化させたりしながら、確実に業績を伸ばしてきている。

図表 2 法人税納税ランキング (2015 年度)

順位	企業名	業種	財閥名
1	Kanbawza Bank	銀行	Kanbawza
2	Myawaddy Bank	銀行	UMEHL
3	Myanma Economic Holdings	製造	UMEHL
4	Myawaddy Trading	卸小売	UMEHL
5	Shwe Byain Phyu	卸小売	—
6	Global Treasure Bank	銀行	—
7	Regency Material Trading	卸小売	—
8	Dagon Beverages	製造	MEC
9	Asia Energy Trading	卸小売	Asia World
10	Benhur Trading	卸小売	—
11	Ayeyawardy Bank	銀行	Max
12	Shwe Me	卸小売	—
13	Information Technology Central Services	サービス	—
14	First Private Bank	銀行	—
15	PT Power Trading	卸小売	—
16	Thu Gyi Min Co.,Ltd	輸出入	—
17	Small and Medium Industrial Development Bank Ltd	銀行	—
18	Fuxing Brother Co.,Ltd	輸出入	—
19	Yoma Bank Ltd	銀行	SPA
20	Zaykabar Co.,Ltd	建設	Zaykabar
21	Co-Operative Bank Ltd	銀行	—
22	Denko Trading Co.,Ltd	卸小売	Eden
23	City Mart Holding Co.,Ltd	卸小売	—
24	Myat Myittar Mon Gems & Jewellery Co.,Ltd	卸小売	—
25	IKBZ Insurance Co.,Ltd	サービス	Kanbawza
26	Shwe Than Lwin Media Co.,Ltd	サービス	Shwe Than Lwin
27	Bhone Kyaw San Co.,Ltd	輸出入	—
28	Shu San Industry Co.,Ltd	卸小売	—
29	Kyaw San Co.,Ltd	卸小売	—
30	International Beverages Trading Co.,Ltd	卸小売	IBTC

出所：Internal Revenue Department より DMS 作成

5 位の Shwe Byain Phyu は、石油精製油の輸入卸企業である。いわゆるガソリンスタンドの経営である。ミャンマーでは、2010 年 6 月以前は、ガソリンスタンドは国営となっていたが、2010

年 6 月より、民間の参入が許可され、多くの企業が参加することになった。民主化後、日本からの中古車輸入を中心にミャンマーの乗用車販売数は急増したことで、ガソリンへの需要が高まり、ガソリンスタンド経営の企業が納税上位に顔を出す結果となっている。ミャンマーには現在、代表的な 5 大石油精製油の輸入卸業者がいる。すなわち、PT Power Trading、Denko Trading、Asia Energy Trading、Shwe Byain Phyu、Regency Material Trading である。2015 年度の納税ランキングでは、Shwe Byain Phyu が 5 位、Regency Material Trading が 7 位、Asia Energy Trading が 9 位、PT Power Trading が 15 位、Denko Trading が 22 位となっている。

6 位の Global Treasure Bank は、主に農業や漁業関係者に融資を行う銀行である。この銀行が比較的上位に位置しているのは、ミャンマーの経済構造が、依然として農業主体であることを意味している。

8 位の Dagon Beverages は、軍系の財閥である Myanmar Economic Cooperation (MEC) が経営するビール会社である。代表的なブランドはダゴンビールである。ダゴンビールは、ミャンマービールと比較すると、あまりメジャーではないが、それなりの需要はあるようである。10 位の Benhur Trading は、1996 年 4 月に設立された従業員 700 名程度の会社である。主な仕事は、建設資材、オフィス・住宅設備、サニタリー製品など卸小売である。顧客の満足度をあげるために商品の品質を重視しており、顧客ニーズに応えるべく、タイ、韓国、中国、マレーシア、日本、ベトナム、イタリア、シンガポールなど数多くの国から輸入を行っている。現在ミャンマーは、オフィス、コンドミニウム、ショッピングセンターの建設ラッシュが続いていることで業績を大きく伸ばして、ランキングは、2014 年度の 15 位から 10 位へと上がっている。12 位の Shwe Me も 1995 年 4 月に設立された建設資材の卸売を手がける会社で、Benhur Trading と同じように建設ラッシュで業績を伸ばしている。

11 位の Ayeyarwady Bank は、財閥グループである MAX グループの中核銀行である。MAX グループは、1993 年に設立され、最初は、日本からのバス輸入、中古車輸入、ジェネレータ等の機械輸入を行ったが、その後、事業の多角化を進め、農業、エネルギー、製造業、建設、高速道路運営、ホテルなどの事業を展開している。日本のみずほ銀行と業務提携しており、日本企業とミャンマー企業のマッチングのためのセミナーを日本で開催したりしている。

13 位の Information Technology Central Services は、インターネットサービスプロバイダーである。現在、ミャンマーではブロードバンド市場開拓が盛んに行われており、その結果として業績を伸ばしてきていると思われる。ブロードバンドの拡大余地は大きいので、この会社は、今後についても上位に位置する可能性は高いであろう。

16 位の Thu Gyi Min Co., Ltd、18 位の Fuxing Brother Co., Ltd、27 位の Bhone Kyaw San Co., Ltd は、シャン州のムセに本社があり、中国との国境貿易で利益をあげている会社である。

23 位の City Mart Holding Co., Ltd は、ミャンマーでスーパーマーケットを展開する会社である。店内の品揃えや品質に関しては、かなり工夫されており顧客の満足度は高いと思われる。ミャンマーでは、他にもスーパーマーケットがいくつかあるが、現在のところ、City Mart Holding Co., Ltd が経営するスーパーマーケットがかなりの市場シェアを持っていると推測され

る。

図表 3 法人税納税ランキングの推移

順位	2013 企業名	2014 企業名	2015 企業名
1	Kanbawza Bank	Kanbawza Bank	Kanbawza Bank
2	Asia World	Myawaddy Bank	Myawaddy Bank
3	Shwe Taung Development	Denko Trading	Myanma Economic Holdings
4	Max Myanmar Construction	Myawaddy Trading	Myawaddy Trading
5	Global Treasure Bank	Myanma Economic Holdings	Shwe Byain Phyu
6	International Beverages Trading	Global Treasure Bank	Global Treasure Bank
7	Co-operative Bank	International Beverages Trading	Regency Material Trading
8	Myanma Apex Bank	Co-operative Bank	Dagon Beverages
9	Elite Tech IT Services	Ayeyawaddy Bank	Asia Energy Trading
10	Denko Trading	Shwe Byain Phyu	Benhur Trading

出所：Internal Revenue Department より DMS 作成

3. 今後の予想

ミャンマー経済は、軍事政権下にあったことで、軍関係や軍との関係の深い一部の財閥が大きな経済的影響力を持っていると言われてきた。しかし、2015 年度の納税ランキング上位の企業を見ると、財閥で、明らかに上位にいるのは、Kanbawza グループと UMEHL のみである。

一方で、財閥以外の企業で好調な業績を残しているところを見ると、主な業種としては、(1) 建設資材、住宅設備関連の卸小売、(2) 石油精製品の輸入販売（ガソリンスタンド）、(3) インターネット関連、(4) 中国との国境貿易などに関係する企業である。これらは、オフィス、コンドミニウム、ショッピングセンターの建設ラッシュ、日本からの輸入車を中心とした自動車の急増によるガソリン需要増、ブロードバンドを中心としたインターネットの拡大、中国との活況な国境貿易という現在のミャンマー経済の特徴をそのまま表していると言ってよいだろう。

民主化後の不動産開発やオフィス、コンドミニウム、ショッピングセンター等の建設ラッシュの動きは、ピークを過ぎたと思われるものの、急激な需要減という状況までには至っていないため、建設関係の業績は、当面は、それほど悪くならないと思われる。インターネット関連では、ブロードバンド中心に、まだまだ拡大の余地を残しているため、これらに関連した企業が新たに納税上位にランクインしてくる可能性は高いであろう。

財閥系企業に関しては、まず、UMEHL の動きが注目である。UMEHL は、銀行、製造業、卸小売の 3 部門の企業が 2～4 位を占めており好調さがうかがえる。UMEHL 関係企業に、キリンホール

ディングスが資本参加したことで、グループ企業内のコンプライアンスが強化されてきている印象もある。次には、Asia World、Max Group、Shwe Taung Group にも注目していきたい。Asia World は、ヤンゴン国際空港建設やヤンゴン港の権益を持っており安定した収益が期待できる。Max Group は、透明性の高い企業グループと位置づけられており、石油精製油の輸入販売などを中心に業績を伸ばしている。また、みずほ銀行との提携で、日本企業との関係も深い。Shwe Taung Group は、不動産、インフラ、建設、建築資材などがビジネス分野である。これまで、水力発電、レーダン地区の陸橋、ヤンゴンとマンダレーの高速道路などの建設に携わった実績がある。現在は、ヤンゴン市内で大規模な不動産開発を手がけている。Shwe Taung Group は、シンガポールの企業と連携するなどして高いレベルの技術力があり、同グループが手がけた、ジャンクシヨンスクエアやジャンクシヨンシティの建物を見ると、現地の他の業者が開発したものより、かなりしっかりしたつくりとなっている。一方で、最大財閥と言われている Htoo グループの活動にはあまり目立った動きが見られず、気になるところである。

図表 4 ミャンマーの主な財閥

財閥グループ名	主な取扱業種
Htoo Group	精米、チーク材、建設、ホテル、運輸、通信、金融、ガソリンスタンド
Max Myanmar Group	ゴム、セメント、建設、トレーディング、高速道路運営、金融、ホテル、ガソリンスタンド
Kanbawza Group	銀行、証券、保険、運輸
Asia World Group	インフラ建設、運輸、通信、保険、不動産、小売
IGE Group	木材、石油・ガス、建設、電気、ホテル、通信、金融
Shwe Taung Group	建設、セメント、建設資材、ショッピングセンター、ガソリンスタンド
SPA Group	不動産、自動車輸入・販売、小売、旅行
Myanmar Economic Corporation (MEC)	ビール、タイヤ、ボルト、ナット、通信
Union of Myanmar Economic Holdings (UMEHL)	ビール、たばこ、砂糖、宝石、翡翠、鉄、化学、ホテル、旅行
Shwe Than Lwin Group	メディア
Eden Group	農業、鉱業、建設、不動産
Dagon International	建設、木材、農業
International Brewery Trading (IBTC)	ウイスキー
Loi Hein Group	飲料水、エネルギー・ドリンク

出所：各企業ウェブサイト等より DMS 作成

まとめ

2015 年度の外資および国内の法人税納税ランキングから見てくるミャンマーで活況な業種は、外資では、石油・ガスとビール製造、国内では、銀行、建設資材、住宅設備、ガソリン

ランド、インターネット、中国との国境貿易等である。こうした現実から判断すると、ミャンマー経済は、まだ、立ち上げのステージにあり、本格的な成長へと移行する段階ではないようである。工業化へと舵を切って成長を促進していくには、それを担う資本設備の蓄積や熟練労働者が必要となってくるが、残念ながら、現状では、その辺が整備されてきているとは言い難い。ミャンマーが工業化を進めるにあたっては、国内に資金や人材が不足しているため、外資の力を利用するのが効率的な方法ではあるが、FDI（直接投資）のデータを見る限り、外資の関心は、もっぱら石油・ガス開発へと向いており、本格的な製造業への投資には向いていない。日本が中心となって開発が進んでいるティラワ工業団地は順調ではあるが、軽工業を中心とした業種が多い。本格的な製造業が進出できない背景には、エネルギー不足やアセアンの辺境という立地が影響している面が大きい。アセアンの辺境という立地はどうしようもないが、エネルギー不足に関しては、政策対応が可能と思われるため、こうした分野への優先的な予算付けなど戦略的な開発政策が望まれる。